

国際室 たより

編集：日本弁護士連合会
国際室

No. 60

会員専用ウェブサイトの 国際ページはこちら



(本紙に記載されている
イベント等の詳細をご覧
いただけます。)

「国際分野で活躍するための法律家キャリアセミナー」を開催しました

1. 概要

2024年10月5日、「国際分野で活躍するための法律家キャリアセミナー」(日弁連主催、法務省・外務省共催)がウェビナーにて開催され、官庁、国際機関、法律事務所等、様々な場で国際業務に従事する法律家等9名が登壇し200名を超える聴衆に向けて講演を行いました。今回は国際刑事裁判所の赤根智子所長も登壇されました。本記事では講演内容を一部紹介します。

2. 国際機関で働くには

書類選考通過には最初に見られる志望動機書の英語の質が重要である。経歴として基本的に修士号が必要だが、大学名はそこまで重要ではない。

国連のCompetency-based interviews(面接)には、STARメソッドで準備することが重要である。

JPO(Junior Professional Officer)について、短期的には、応募するポストと自分の経験との関連性を具体的にして書類作成・面接に臨むこと、長期的には、関心分野に常にアンテナを立て、リサーチや現場経験、アウトプットを積み重ねることが大切である。

3. 国内での国際業務

LGBTQの人権問題には国際的な連携が重要であるが、日弁連海外ロース

クール推薦留学制度による留学が転機となった。留学中の人脈形成は極めて重要である。

企業法務としては、特に中小企業の国際法務支援は人材不足であり、ニーズが高い。現地弁護士との連携も必要になるが、留学のほか、国際会議等に積極的に参加することも大切である。

4. 省庁での任期付き公務員

裁判官、検察官、官僚、他の省庁など、別のバックグラウンドを持つ人とチームで活動するのでチームワークが重要である。

5. 国際司法支援



「質疑応答」の様子

JICA法整備支援の長期専門家として重要なのは、単なる法律案の提供ではなく、現地の人との議論やそれを通じた信頼関係の構築などである。

(国際室副室長 小林 美奈)

IBA年次大会(メキシコ・メキシコシティ)



“Japan Night”の様子

日弁連が団体会員となっている国際法曹協会(IBA)の年次大会が2024年9月15日から20日にかけてメキシコ・メキシコシティで開催され、日弁連から日下部真治副会長及び矢吹公敏会員(IBA日弁連代表理事)ら代表団が出席しました。日弁連の代表団は、各種セッションやレセプションに参加するほか、オーストラリア弁護士連合会、ドイツ連邦弁護士連合会(BRAK)及びドイツ法曹協会(DAV)との間で二者間会合を行い、AI規制の状況、マネーロンダリング規制の弁護士業務への影響、死刑制度廃止、司法権の独立など、各弁護士会が抱える課題について意見交換をしました。また、理事会では、2024年9月初旬に署名された欧州評議会のいわゆるAI国際条約をIBAが承認することや、近時メキシコで導入が決まった判事公選制と法の支配との関係などが議論され、日弁連もIBAの意思決定に関与しました。昨年の年次大会に引き続き、会期中には、日本食レストランにてレセプション“Japan Night”を主催し、諸外国の弁護士会や国際法曹団体の関係者を含む100名近くのゲストの参加を得て、日本と日弁連のことをよりよく知ってもらう機会となりました。2025年の年次大会は、カナダのトロントで開催予定です。

(国際室室長 尾家 康介／国際室嘱託 塩川 真紀)

ABA年次大会に参加しました



ABA年次大会にて

2024年7月31日から8月4日にかけて、米国イリノイ州シカゴで開催された米国法曹協会(ABA)の年次大会に、日弁連からは日下部副会長が参加しました。各国のパーリダーが一堂に会する会合では、AI及び司法の政治からの独立が議題となり、とりわけAIについては動きが早く各法域における関心事項であるため活発な議論が交わされました。AIをリスクより機会と捉えつつ、原理原則ベースでの行動規範や倫理規範の策定の必要性については概ね共通していました。また、英国ローソサイエティやTaiwan Bar Associationと個別の意見交換を行うなど、交流を深めました。

(国際室副室長 小林 美奈)

UIA年次大会(フランス・パリ)



英国ローソサイエティとの会合

国際弁護士連盟(UIA)の年次大会が2024年10月30日から11月2日までフランス・パリで開催され、日下部副会長が参加しました。今回の年次大会では、各国の弁護士会のリーダーが集まるInternational Bar Leaders' Senateにおいて、日弁連も登壇し、表現の自由とその限界および表現の自由に対する危機についてパネルディスカッションに参加したほか、日弁連が後援したAsian Lawyers' Forumにて、LGBTQの問題をテーマとして取り上げ、意見交換が行われました。また、英国ローソサイエティとの間で個別に会合を行うなど、国際交流や情報交換に努めました。今回の年次大会には日本からも多くの会員が参加し、スピーカーとしても活躍していました。2025年の年次大会は、メキシコ・グアダハラで開催予定です。(国際室室長 尾家 康介)

第37回 LAWASIA年次大会 (マレーシア・クアラルンプール)



LAWASIA年次大会の様子

2024年10月13日から15日まで、マレーシアのクアラルンプールにてアジア・太平洋地域の法律家団体であるLAWASIA(ローエイシア)の年次大会が開催されました。日弁連執行部からは坂口唯彦副会長が代表として参加し、小原正敏会員(LAWASIA日本代表理事)とともに理事会に参加したほか、マレーシア弁護士会などとの意見交換の会合やレセプションを通じて、各国からの代表者及び参加者との交流を深めました。また、マレーシアのアンワル首相の講演においては法の支配を担う法律家へのエールを受け、各法分野のセッションでは大会テーマであるデジタル時代における法制度に関する議論が展開されました。

次回の年次大会は、2025年10月にベトナムのハノイで開催予定です。

(国際室嘱託 松本 成)

通年で申し込みます！ 国際会議若手会員参加補助制度の御案内

日弁連では、会員の国際活動を支援し、弁護士の活動領域を国際的に拡大するため、国際会議への若手会員の参加費用を補助しています。2025年度から通年で申し込めるようになりました。応募締切は、補助を希望する国際会議開会日の2か月前の月の10日必着です。

募集要項等、詳細は会員専用ページを御覧ください。



日弁連推薦留学制度 ～様々なメリットがあります～



日弁連は、ニューヨーク大学、カリフォルニア大学バークレー校、イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校、エセックス大学及びシンガポール国立大学と協定を締結し、客員研究員やLL.M.の学生として会員を派遣しています。

日弁連の審査に合格すると、現地ロースクールへの出願に際し、日弁連会長からの推薦状の発行や、日弁連国際室による出願書類のレビュー等のサポートを受けられます。また、留学を終え研究論文を提出するなどの要件の充足後、支援金が支払われます。これまでに80名以上の会員が、本制度を利用して留学を果たしており、過去に留学し国際的な公益分野で活躍する先輩会員とのネットワークに入れるメリットもあります。

2026年夏頃からの留学生の募集は、今のところ2025年5月頃の開始を予定しておりますが、最新の情報は改めて日弁連ウェブサイト等で御案内します。留学体験記や研究論文のほか、求められる英語力の目安、現地での住まい探し、帰国後のキャリア等の様々な疑問に答えるQ&Aを、日弁連ウェブサイト(一部は会員サイト)に掲載しています。帰国後は様々な会務にも留学経験を活かしますので、会員の皆様においては、ぜひ本制度の利用を御検討ください。

(国際室前室長 坂野 維子)

